

ヒメオオクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

Nipponodorucus montivagus montivagus (Lewis)

選定理由

生息域が1,000m以上のブナ帯に限られる。また、近年の個体数の減少は著しく、採集圧が要因と思われる。

形態

体長は大顎を含め30~55mmの大型のクワガタムシ。体色は黒色で弱い光沢を持つ。オスの大顎は太く、大きな内歯が中央前に内斜め前方を向いている。メスの大顎は小さい。

国内分布

北海道、本州、四国、伊豆大島。

県内分布

白山市（旧白峰村、旧尾口村）の白山山系山地帯。

生態

標高1,000m以上のブナ帯に生息し、成虫は6月下旬から9月に現れ、ヤナギの樹液に集まる。また、灯火にも飛来する。幼虫は太いブナの朽木を食する。成虫は晩夏に羽化した後、そのまま蛹室にとどまり越冬する。幼虫期は2年以上かかる。

生息地の条件

ブナの原生林が残されていること。

生存の危機

生息地は白山国立公園内のため、自然環境は保たれている。しかし、最近のクワガタムシブームで、業者によると思われる採集圧が顕著であり、有名な産地では個体数が激減している。(A)

特記事項

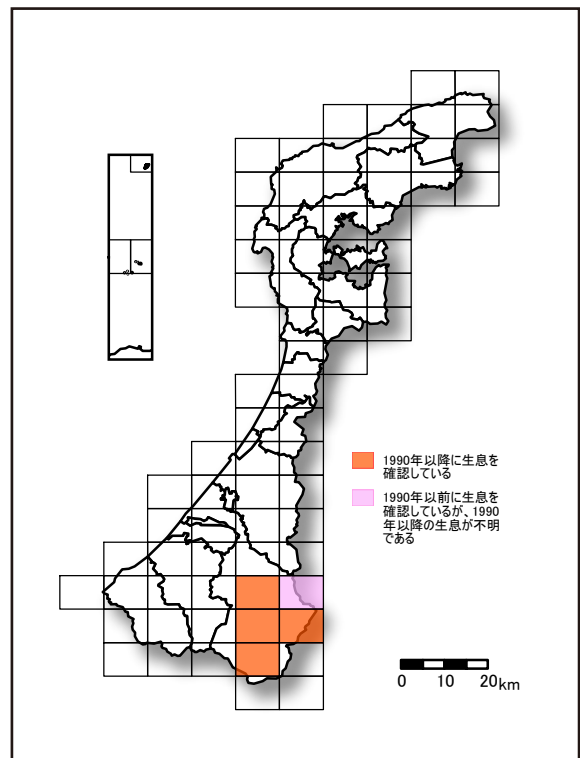
九州には別亜種のキュウシュウヒメオオクワガタが分布する。

参考文献

高羽正治 1998. コウチュウ目クワガタムシ科. 石川県の昆虫: 146. 石川県自然保護課.



写真提供者: 富沢章



県内の分布